

## 応募結果

### 1. 概要

シーニックバイウェイ北海道推進協議会では、これまでにシーニックバイウェイルートとして6ルート指定、候補ルートとして3ルートを登録し、推進しているところ、この度、新たに「萌える天北オロロンルート」及び、2箇所の候補ルートの提案がありました。

(平成20年3月15日締め切り分)

### 2. 提案のあった3ルート

#### (1) シーニックバイウェイルート

ルート名	萌える天北オロロンルート
申請月日	平成20年2月15日
関係市町村	増毛町、留萌市、小平町、苫前町、羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町、幌延町(9市町村)
提案者	萌える天北オロロンルート運営代表者会議
代表者	西 大志(苫前商工会)
構成団体	36団体

#### (2) シーニックバイウェイ候補ルート

ルート名	どうなん・追分シーニックバイウェイルート
申請月日	平成20年3月8日
関係市町村	木古内町、知内町、福島町、松前町、上ノ国町、江差町、厚沢部町、乙部町、奥尻町(9町)
提案者	どうなん・追分シーニックバイウェイルート運営代表者会議
代表者	木元 護(木古内商工会長)
構成団体	30団体
ルート名	トカプチ雄大空間
申請月日	平成20年3月9日
関係市町村	帯広市、音更町、芽室町、幕別町、池田町、浦幌町、豊頃町(7市町)
提案者	トカプチ雄大空間ルート運営代表者会議
代表者	野村文吾(帯広商工会議所)
構成団体	27団体

## ■シーニックバイウェイルート

### ◆萌える天北オロロンルートに対する意見

日本海の荒波、海岸線の美しさ、島の遠望、電柱や看板のない沿道、原野など、我が国に稀有な手つかずの景観が訪れる人を惹きつけ、非日常を求める観光客には日本人ばかりか外国人にも通用する景観を有している。

このような景観は全国的にも少なく、建物・看板等のルールづくり、広告物規制や景観法の活用も視野に景観保全・向上の取組に期待したい。

観光地として荒らされていない魅力があり、個人型の次世代観光に対応した、新たなツーリズムとしてオンリーワンの資源を中心に展開すれば、国際的な競争力を持つことも可能である。

独特の景観に加え、食の宝庫であり、森羅万象の自然現象も貴重な資源として活用し商品やサービスとしてメニュー化するとともに、物語性の充実、景観や環境、食をパッケージ化し全国・世界へ情報発信、旅行会社との連携などが望まれる。

「暮らしぶり」のテーマでは、日常の生活景と人々の生活の魅力のアピールとともに、ホスピタリティ豊かな地域住民が最大の資源となる。来訪者をお迎えする「おもてなし」について具体的に活動計画に反映するとともに、地域住民やコミュニティ全体を巻き込んだ活動となっていくことが望ましい。

札幌や旭川から宗谷地域に向かう観光周遊ルートとして活用される可能性が高く、「宗谷シーニックバイウェイ」との連携によるブランド化に向けた取組を期待したい。

道外、国外の地域づくりの事例を踏まえると成功のポイントとして、「自主性」「挑戦」「活動のネットワーク」「人材育成」「住民との連携」が挙げられる。

景観・環境意識の向上、歴史文化の発掘と古老・子供を含めた幅広い人材発掘・育成、地域資源を生かしたコミュニティビジネスの創出、継続的な参加者の募集や参加する各主体（住民、活動団体、市町村、道、国）による持続的な責任ある行動。これらに留意しつつ、地域に合ったスピードで具体的な活動を展開していくとともに、今後の活動が地域全体の活動となっていくことが望ましい。

今後も、候補ルート期間内に深めた活動の連携と質の向上を継続させ、力強い地域の一体感の醸成を進められたい。

## ■シーニックバイウェイ候補ルート

### ◆シーニックバイウェイ候補ルート全体に対する意見

今後、運営体制の強化、人材発掘・育成、地域資源の発掘・活用、活動団体や関連団体との連携・協働のあり方などについての議論と合意形成等の取り組みや、活動団体同士や行政、地域産業と連携した取り組みが重要である。

また、参加者がシーニックバイウェイの趣旨を十分に理解し、ルート全体での理念・目標・活動指針を明確にし、共有化を幅広く図る努力が必要である。

### ◇どうなん・追分シーニックバイウェイ

外部評価やアドバイザーの採用等により地域資源を再発掘するとともに、道外からの来訪者の視点に立って既存の観光を見直し、総合的な戦略を検討する必要がある。

「北海道発祥の地」を意識した歴史・文化・景観資源の再評価と幅広い人材の発掘・育成により、全国の先進事例も参考に、地域の個性を生かした新たなツーリズムの検討が必要である。

将来的には、函館、青森などとの連携も視野に入れたルートのブランド化に向けた広範な工夫が必要である。

さらなる活動団体や関連団体との連携・協働のあり方などについて、具体的な活動・行動計画のもと議論と合意形成等に取り組むとともに、目に見える活動と成果により、参加者の意識の共有を幅広く図る必要がある。

### ◇トカプチ雄大空間

雄大な十勝平野の特徴を有するルートだが、全国・東アジアレベルで評価されている景観等の地域資源は十勝全域に共有するもので、ルートの範囲とその限定方法に必然性が感じられず、国内・国外からの観光周遊ルートを具体的に描いた上でルートの範囲の見直しが必要である。

上記見直しに際しては、「十勝平野・山麓ルート」、「南十勝夢街道」との連携や差別化等、ルートのあり方についての議論と合意形成が必要である。

ルート全体での理念・目標・活動指針を明確にし、活動団体や関連団体との連携・協働のあり方などについての議論と合意形成等に取り組み、具体的な活動・行動計画のもと参加者の意識の共有を幅広く図る必要がある。

## ■その他

第2次ルート提案に対する審査委員会意見について、下記の通り追記する。

### □シーニックバイウェイ候補ルート

#### ◇南十勝夢街道

十勝平野・山麓ルート、トカプチ雄大空間との連携や差別化、襟裳岬地区とのコラボレーション等、ルートのあり方についての議論と合意形成が必要である。

農村文化と都市との関係、地域で開催されるイベントとの連携活動等を、どのように展開していくのか検討されたい。

さらなる運営体制の強化、人材の発掘・育成、活動団体や関連団体との連携・協働のあり方などについての議論と合意形成等に取り組むとともに、ルート全体での理念・目標・活動指針を明確にし、参加者の意識の共有を幅広く図る必要がある。

#### ◇十勝平野・山麓ルート

南十勝夢街道、トカプチ雄大空間との連携や差別化、また、他のシーニックバイウェイルートとの繋がりや差別化を考えたルートのあり方についての議論と合意形成が必要である。

大規模農地と山脈がおりなす北海道らしい景観資源を活用し、滞在地としての優位性をアピールする工夫が必要である。